

Global and Innovation Gateway for All

GIGA 通信

-児童生徒 1 人 1 台端末の日常的な活用に向けて-



発行元

佐野市教育センター

佐野市上羽田町 1134 番地 1

電話 20-3108

20-3048(相談専用)

まん延防止等重点措置が 3 月 21 日で解除となります。感染のピークは過ぎたとはいえ、かつての日常に戻るにはもう少し時間が必要なようです。

小・中・義務教育学校の卒業式も無事終わり、今年度も残すところ約 2 週間です。4 月から配信してきた GIGA 通信も今回が最終となります。ここまで数多くの学校及び先生方に取材へのご協力いただきましたこと改めて感謝申し上げます。

さて、今回は小学校での実践を 2 例紹介させていただきます。いずれも今後に繋がる実践です。来年度の各校での取り組みの参考としていただければ幸いです。

(1) 小規模校 4 校での英語の合同授業 OALT の発案を生かして

まずは、遠隔授業の紹介です。常盤小からの呼びかけで多田小、葛生南小、出流原小、4 校の 6 年生が Meet を利用して英語の合同授業を行いました。

呼びかけを行った常盤小学校の校長先生から「ALT の先生から



授業の成果を確認する意味で Web 会議システムを使った合同授業を行いたいとの提案がありました。へき複の研究会等で以前から遠隔教育の有用性が紹介されており、小規模校 6 校の校長先生に連絡をしました。急な連絡でもあったので氷室小と栃本小は、参加できませんでした。4 校で実施することができました。授業の展開は ALT と 6 年担任が考えました。」と取り

組みの経緯をお話いただきました。

各校の担任及び ALT が英語で自己紹介を行った後、『We can』を共有し画面越しではありますがチャンツを合同で行いました。声を出したことで少し緊張が解けた様子を感じました。メインのアクティビティは『中学校生



活で楽しみにしていること』や『将来の夢』について、お互いに英語で伝え合う活動でした。児童は、画面越しではありましたが、初見にもかかわらず、堂々とした様子で応答を行うことができていました。

授業後、担任の先生から「他校とつながることの良い意味の緊張感があり、普段と違う児童の姿（真剣に聞き・話す姿）を確認しました。自分の質問が相手に伝わったことへの満足感を感じた児童も多く、英語に限らず、今後も機会をとらえて行いたいと思いました。」との話をお聞きました。



○今後に向けて

授業を参観させていただいて、遠隔教育への期待が広がりました。まずは、英語をツールとしたコミュニケーション力の向上についてです。他校等との交流を重ねることで、英語に限

らず児童のコミュニケーション力は向上します。今回は市内 4 校がつながっての授業でしたが、Web 会議システムにより世界中の誰とでもつながることができる時代です。授業後、先生方から「いずれは中国の小学生とつながりたいね。」との会話もお聞きしました。今後、交流対象が県内、県外さらには海外へと広がる可能性が十分考えられ、様々な交流で『使える英語』が身につくことが期待できそうです。

また、『学び合い』の補完としての期待があります。校長先生から「小規模校では、『学び合い』をどう成立させるかが大きな課題である。」とお聞きしました。今回のように小規模校同士がつながることにより、自校では行えない同学年の児童との『学び合い』が十分成立すると感じました。複式学級が増える来年度以降、今回のような取り組みを一層進めて欲しいと思いました。

(2) ロイロノートでの

『シンキングツール』の活用

○『シンキングツール』について

吉水小学校の 6 年担任の先生が行う国語の授業を校長先生のご好意のもと参観させていただきました。

吉水小では、『シンキングツール』をロイロノートと併せて活用しています。『シンキングツール』について先生は「以前から児童の考えを整理させるために

『思考スキル』※という技法を授業に取り入れてきました。『思考

スキル』を行うための道具が、『シンキングツール』です。ロイロノートでは『シンキングツール』がテンプレートとして簡単に利用できるので、今では教科に限らず、児童に考えさせたい場面があると利用しています。」と話してく



れました。

今回の授業の内容は、6 年生最後の単元「海の命」、そのまとめでした。本時では『シンキングツール』の利用

の外、導入時にロイロノートで配布した自作教材（右写真）を用い

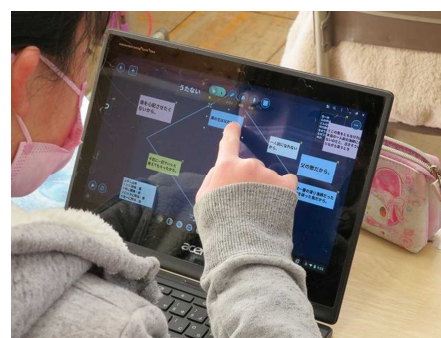
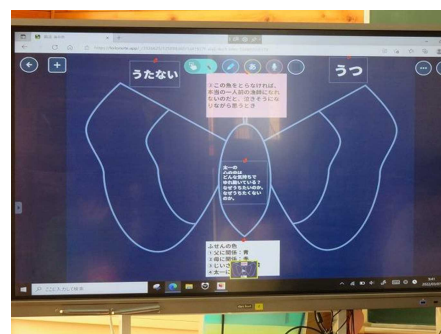


て、気持ちの変化を可視化したり、少人数での話し合い活動があったりするなど、児童の活動を重視した展開が工夫され、児童全員から『主体的な学び』を感じる事ができました。

また、授業で 2 つの『シンキングツール』が利用されました。1 つ目はバタフライチャート、2 つ目がダイヤモンドランキングです。2

つの『シンキングツール』を利用したことについて先生は「最初に登場人物の思い（自分の考え）を複数の角度で捉え、ツールを変え、思い

（自分の考え）を順位付けるとい



った過程を通して、自らの考えを深めて欲しいと思いました。また、ロイロノートを使うことで最初に入力したテキストを 2 つ目のツールでそのまま利用できるのも、よくこのような形で利用しています。デジタル化のメリットです。」と話してくれました。

○『シンキングツール』の有用性と汎用性

今回、ロイロノートで『シンキングツール』を併用した授業を始めて参観させていただきました。児童の様子から、考えるための切り口を提供し、考えをまとめ、整理するための方法として『シンキングツール』の有用性を改めて感じました。『シンキングツール』は本市においても複数の学校で活用が進んでいます。各校での活用を通して、今後の成果を期待したいと思います。

なお、今回の実践にあるように本市では、ロイロノートでデジタル化された『シンキングツール』を利用する事が可能です。デジタル化による利点としては、「二度書きする必要が無いこと」の外に「保存ができ、振り返りが可能なこと」「簡単に書き直しができる」等があります。1人1台端末が整備されたことにより校内であればいつでもすぐに簡単に利用ができます。実際に吉水小学校では、授業外でも児童が自主的に『シンキングツール』を利用する事があるそうです。「考えを整理するために便利(必要?)」との思いが児童の中に育っているのではないかと考えました。

なお、ロイロノートで利用できる『シンキングツール』に関しては各校に冊子(右写真)が配布済みです。すでにご利用いただいているかと思いますが、どんなツールがあり、どんな意図を持って使うのかを知る手がかりにもなります。参考にいただければ幸いです。

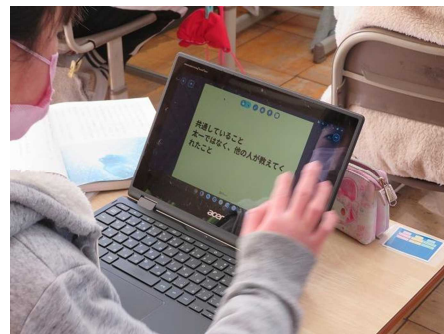


○今後に向けて

授業後、先生から「現在、授業に限らず、様々な場面で『シンキングツール』を利用していますが、まだ勉強不足です。さらに活用を進め『思考スキル』※についての学びを深めたい

と思っています。また、『シンキングツール』を含めてロイロノートを使うことにより『救われる児童』がいると最近感じています。児童の『主体的な学び』につなげるためにロイロノートについても研究していきたいと思っています。」との話しをお聞きしました。

ロイロノートには提出箱というデータ共有を図る機能があります。日常的に活用が進むと、考えることが得意な児童は、より多くの考えを提出箱に提出し、考えがうまくまとまらない児童は、提出箱内のたくさんの意見も参考にして自分なりに考えをまとめることができるようになります。考えがまとまらず、何も手がつかない児童を減らすことができるということです。まさに『協働的な学び』です。



最後に、今回の授業では、画面の切り替えや操作の仕方、タイピング等で戸惑う児童が1人もいませんでした。児童の操作スキルの高さを感じました。高い操作スキルが『主体的な学び』の成立の一助となっていると感じました。

吉水小学校では、機会を捉えてタイピングの練習を行ってきたそうです。また、授業に限らず朝の会や係活動等でも端末の利用をすすめているそうです。

日常的な端末活用による児童生徒の操作スキルの向上は、『主体的な学び』を支える大きな力となる事を改めて感じました。「操作スキルの向上」は授業でのICT活用に向けた今後の重要なポイントとなりそうです。

(文責 教育センター所長)

※「思考スキル」 関西大学の黒上先生が提唱する『考えるための技法』です。吉水小以外にも市内の多くの学校が研究を進め、シンキングツールを活用しています。